消 防 学 校 だ よ り

令和３年７月号

発行年月日　令和３年７月 30 日
発　　行　宮崎県消防学校

初任科(視察研修)

７月７日(水)、８日(木)、９日(金)の三日間で、屋久島へ視察研修に行きました。宿泊が山頂であったため寝具やテントなどの多くの荷物がありましたが、皆で協力し無事山頂へ到着することが出来ました。二日目は雨風に打たれ、自然を身体に感じながらの下山となりましたが良い経験になりました。

初任科(救助訓練)

初任科生もオレンジ色の活動服に身を包み救助訓練を開始しました。登はん法や降下法をはじめ三連はしご操法などの各種救助基本動作を消防救助操法の基準に基づき学ばせます。

初任科(水上安全法)

７月 26 日(月)、水上安全法を実施しました。要救助者の水面での搬送法や着衣で落水した場合の対応法など、水上での対応を訓練しました。水面における救助は、まずは陸上からあらゆる方法を試し、入水は最終手段である事も学びました。

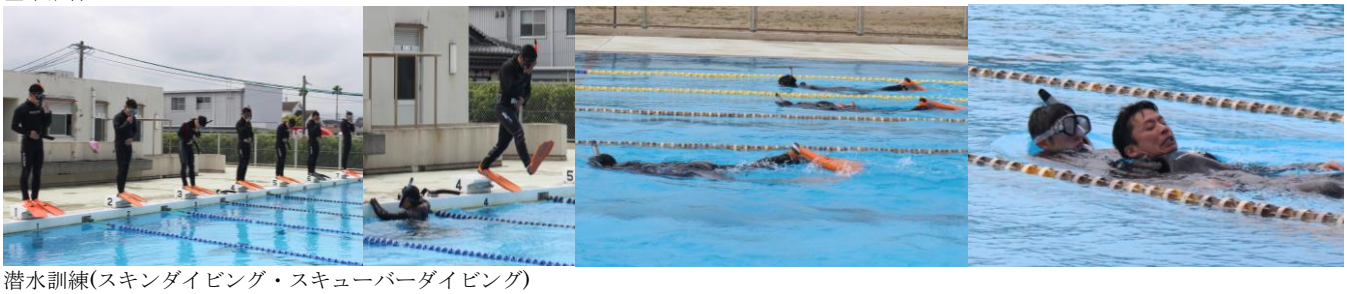
初任科(健康と体力)

７月 29 日(木)、全国の消防学校、消防大学校で講義をされている、タフジャパンの鎌田　修広氏を講師に招き、「健康と体力」と題して、タフで優しい心・身体をつくる実践的トレーニングを、十分な感染対策のもと行っていただきました。

救助科(水難救助訓練)

7月1日(木)、2日(金)で水難救助訓練を実施しました。水難救助概論をはじめ、水に関する基本的特性、危険性を座学にて学んだあと、3点セット(マスク・シュノーケル・フィン)等の基本的技術を行い、スキンダイビング、スキューバーダイビング訓練を宮崎海洋高校潜水プールにて実施しました。スキューバーダイビング技術には、ダイビングインストラクターの福田　道喜氏(グリートダイバーズ)を講師に招き、潜水器具の設定から訓練しました。

基本訓練



潜水訓練(スキンダイビング・スキューバーダイビング)

救助科(チェーンソー取扱い訓練)

7月5日(月)チェーンソー取扱い訓練を実施しました。倒木などの除去を必要とする災害現場においては、チェーンソーを用いて倒木等の活動障害の除去を行いますが、使用する資機材の諸元や手入れ方法、適切な使用がされなければ必要以上の作業時間を必要とし、時には安全管理上重大な支障を来す場合もあります。午前は宮崎機械(有)戸郷　洋逸　講師にチェーンソーの構造から手入れの講義を受けた後、実技を宮崎中央森林組合　奈須　隆男　講師以下4名の指導の下で山中にて訓練しました。

実際に、約20mの立木も伐倒し、現場に繋がる良い経験になったと思います。

宮崎機械　戸郷講師

宮崎中央森林組合　奈須講師

チェーンソー取扱い訓練

伐倒方向に受け口作り

約20mの樹木を伐倒しました。

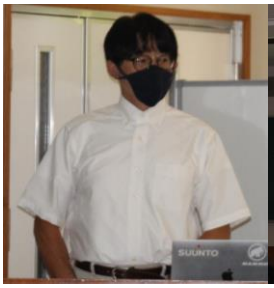
救助科(山岳遭難救助訓練)

7月6日(火)、7日(水)の2日間にわたり、笹倉　孝昭　講師(日本山岳ガイド協会・国立登山研修所講師)を本校に招き、山岳遭難救助訓練を実施しました。1日目の座学ではナビゲーション、山岳資機材から確保理論に至るまで終日講義を受けました。

2日目は実際に双石山に登り、標高208m付近の尾根から15m程度下に転落した登山者を引揚げ救助システムにて救助し、尾根をフィクストラインとロワリングを行いながら背負い搬送にて救出する訓練を実施しました。

山岳の場合、携行資器材にも搬送限界があり、必要以上に持って行くと救助活動を行わなければならない隊員が活動前に疲弊するなどの体力的な問題もありますので、繰り返し訓練をすることによって、必要となる資機材を見極めておく必要もあります。

笹倉　孝昭　先生


入山前ブリーフィング

地図読み

山中、別れ道では地図とコンパスで方角の確認

要救助者確認

救出準備

R1・R2 要救助者接触

システム確認

救出完了

帰校後訓練振り返り

救助科(航空消防)

7月8日(木)、県防災救急航空隊の築島　伸明隊長から、航空消防について講義を受けました。

現場における捜索や救助、地上隊員や資機材(山岳救助資器材、スプレッダーやカッター、油圧ユニットなど)の投入、ドクターヘリの出動が不可能な場合の現場救急(医師同乗なしでも活動は可能)、林野火災時の消火、災害現場の上空からの確認調査、災害現場の映像伝送(県庁を経由して各市町村や消防本部へ映像伝送が可能。ただし、飛行前に依頼する。)等、防災ヘリを現場活動にて活用する際の活用事例などを話していただきました。

防災ヘリは着陸場必要なしで吊り上げができますので、山岳に限らず通常の救助、救急現場でも活用できます。緊急性、搬送時間を考慮しながら、途中キャンセル、空振りでも結構ですので、遠慮なく要請をお願いします。

救助科(火災性状　実火災訓練)

7 月 9 日(金)、火災性状、実火災訓練を実施しました。消防救助の原点は火災救助です。燃焼現象をしっかりと理解したうえで救助活動を行えなければ事故となります。火災性状に関する座学のあと、屋内火災における発達段階(発火、火災成長段階、火災終息段階)を FOH にて実験しました。室内の一部で火災を発生させ燃焼現象を継続させると、天井付近の高温気体層が厚くなり放射熱が強くなることを体感し、フラッシュオーバー現象の確認をする事ができました。

救助科(CSRM 訓練)

7 月 12 日(月)、宮崎市消防局東分署より講師(吉田宗平司令補、高妻　伸伍士長、一井　亮太士長)に来ていただき CSRM 訓練を実施しました。一井士長の講義で CSRM について学んだ後、実際に震災対応訓練施設にて想定訓練を実施しました。

救助科(CBRN 災害対応訓練)

7 月 13 日(火)、宮崎市消防局東分署にて仁田脇健司令補、甲斐　新二士長、相馬　史也消防士に講師をしていただき CBRN 訓練を実施しました。国内では世界的大規模イベントもあり、特殊災害に対する消防の備えは万全を期さなければ成りません。CBRN 災害対応を座学と実技訓練にて実施し、訓練後の振り返りにて訓練成果を確認しました。

救助科(震災対応訓練)

7 月 14 日(水)、本校屋外訓練場に設置した震災対応訓練施設にて震災対応訓練を実施しました。訓練は救助科カリキュラムで学んだブリーチング、CSRM 等の総合訓練として実施しました。訓練想定は、「南海トラフを震源域とする M9.0 の地震が発生し、県内各地で震度 6 強から 6 弱の揺れがあり、建物倒壊及び土砂崩れが発生」として行いました。現場活動において迅速に行動するには実態把握がまず先決です。状況確認後救助活動を行い、全ての要救助者を救出しました。

救助科(学生企画訓練)

7 月 15 日(木)、学生企画訓練を実施しました。訓練計画、時間管理、安全管理などを含め行いました。救助科研修で実施した交通救助や特殊災害訓練など、各班、今回の救助科カリキュラムで学んだことを交えて訓練を行いました。

7 月 16 日(金)、第 32 期救助科は修了しました。

特別講習(化学災害・テロ時における解毒剤自動注射器の使用に係る講習)

7 月 20 日(火)・21 日(水)に化学災害・テロ時における解毒剤自動注射器の使用に係る講習会を実施しました。国内において世界的な大規模イベントの控えるなか、テロ災害等有事の際には迅速な対応を取る必要があります。使用する機会がないのが一番ですが、有事の際、適切で迅速な対応が取れるよう講習会を実施しました。

震災対応訓練施設

今年度設置した震災対応訓練施設は、ブリーチング訓練や CSR 訓練、倒壊家屋からの救助、土砂災害訓練など、震災対応等のあらゆる訓練が出来ます。

県内消防(局)本部、消防団の利用も可能ですので、施設利用についてはお問い合わせください。

(本校の削岩機、ハンマードリル、エンジンカッター、ファイバースコープ等の訓練資器材も使用可能ですので、県内消防の技術力向上のため積極的に活用してください。)

【施設利用問合せ：教頭　前田　公望】
(0985-56-0555)

8 月の主な行事

初任科実務研修	8 月　2 日(月)～10 日(火)
無線資格取得講習	8 月 26 日(木)
通信指令研修	8 月 31 日(火)～9 月 1 日(水)

宮崎県消防学校
担　当:伊豆元　優一(いずもと　ゆういち)
電　話:0985-56-0555　FAX:0985-56-1475
E-mail:shobou-s@pref.miyazaki.lg.jp